

## おこな事業：柏崎市 えんま通り

### → えんま通り商店街・トレーラーハウス・プロジェクト [12/18/07]

平成 19 年 12 月 16 日、中越沖地震によって甚大な被害を受けたえんま通り商店街の倒壊跡地の広場において、店舗型トレーラーハウスの贈呈式と毎月恒例の笑福市が行われました。この贈呈式では、トレーラーハウス設置に伴う支援に対し、えんま通り商店街より、(社)北陸建設弘済会、カンバーランド社、(株)植木組、鈴木造園の皆様へ感謝状の贈呈がありました。また、その日の夕方には、近くの幼稚園の園児や被災地支援にきていただいた自衛隊の方々を招き、イルミネーション点灯式も行われました。

ここで、今回のトレーラーハウス設置までの経緯をご紹介したいと思います。



### トレーラーハウス・プロジェクト

#### ■プロジェクトの背景

えんま通り商店街は 2007 年 7 月 16 日に発生した中越沖地震で大きな被害を受け、以降復興に向けた取り組みを進めてきた。しかし、実際には多くの店舗建物が全壊となり、建物撤去が進むことで商店街のイメージが失われつつある。復興には時間がかかるが商店街の復興には生活再建とともに商店街として存続していかなくては、忘れ去られてしまう、という危険性があった。そうした中、商店街の一人の店主の発案で建物撤去後の更地にトレーラーハウスを設置して、復興の拠点、仮店舗として機能させることを目指してプロジェクトが立ち上がった



#### ■トレーラーハウスの寄贈から設置

商店街を中心に仮設店舗としてトレーラーハウスを設置すべく「えんま通り町づくりの会」の中に部会として「トレーラーハウス・プロジェクト」が置かれ、トレーラーハウスの購入に向けて議論が進む中で、(社)北陸建設弘済会からの寄贈を受けるに至った。実際の設置に至るまでに、(社)北陸建設弘済会の他に、トレーラーハウスを販売しているカンバーランド社による運搬費の支援、柏崎市に本社がある(株)植木組による整地の支援、大地復興推進会議によるモミの木の提供、鈴木造園によるモミの木運搬費他の支援など、多くの外部支援を受けながら、12月14日未明に設置され、16日の笑福市においてのお披露目となった。



■ 12月16日「笑福市」以降のトレーラーハウス

トレーラーハウスは12月16日以降、復興に向けた様々な活動の場として利用し、えんま通り復興のシンボルとなる。トレーラーハウスから得られた収益はえんま通りの復興に向けた取り組みの原資となり、復興への活動の下支えを行う。また、今後も新たなトレーラーハウスの設置を検討し、その設置を行うことで新しいテナントを獲得し、商店街としての活性化の起爆剤としていく。

(えんま通りまちづくりの会 トレーラーハウス・プロジェクトより)



中越復興市民会議は、えんま通り商店街の復興に向けた動きを中間支援組織として側面支援をさせていただきました。中越大震災からの復興を目的に設立した中越復興市民会議ですが、今までの様々な方々とのネットワークが、このトレーラーハウス・プロジェクトに活かされたのではないかと思います。このトレーラーハウス・プロジェクトがここまでできたのは、えんま通り商店街の皆様のがんばりは勿論ですが、震災以降、このえんま通り商店街の皆様を支えてきた新潟工科大学の田口先生、長岡造形大学の澤田先生、新潟大学の福留先生のお陰だと思えます。今後、このえんま通り町づくりの会は、商店街の皆様を中心に広く様々な方々をネットワークし、復興を進める組織を立ち上げていく予定です。中越復興市民会議も勿論この動きを今後も支援させていただこうと思っています。

- えんま通り商店街・トレーラーハウス・プロジェクト[12/18/07]
- 柏崎市のえんま通り商店街にて「笑福市」が開催されました。[11/12/07]